

R6年度 中・高校生版機関紙 授業での活用例

★本機関紙は上下で構成が分かれております。自身の地域の災害発生リスクについて興味をもち、防災における学校内や地域のニーズに気づき、どんな工夫ができるかを考え、更にそれが実践につながるよう本紙を道德の授業や防災学習等でご活用、ご紹介ください。

《ねらい》

・防災ピクトグラムを事例に、必要な情報を多くの人が簡単に利用・理解できるための工夫に気づく。

・本教材をとおして地域の災害発生リスクや防災について関心を持ち、地域にはいのちを守るためのヒントがあることに気づき、他者のためにどんな工夫ができるか、自分にできることを考える。

《活用案》

- ① 機関紙の上半分を用いて、地域にはいのちを守るためのマークがあることに気づき、それぞれ何を伝えているのかを考える。また、これらのマークはなぜあるのか、マークがあることで、どんな人に情報が届くかを考える。また、ハザードマップを用いて地域のどこに災害リスクが潜んでいるかを知る。

知っていますか？ いのちを守る「防災マーク」



街中を注意して眺めてみるといろいろなマークを見つけることができます。これらは何を伝えているのでしょうか？

マークがあるところはどんな場所？

マークには、災害時に危険があることやどこに避難すればいいかを伝えているものがあります。



非常口



津波注意（津波危険地帯）



津波避難場所

危険な場所を知る方法はほかにないかな？

自然災害が発生した場合の被害を予測して、被災想定地域や被害の範囲、避難場所や避難経路などを地図上に表示したハザードマップを知っていますか？各市区町村の窓口や、インターネットから見ることもできます。

例：どうしてマークがあるか。

→災害時や非常時に危険な場所や避難すべき場所を分かりやすく伝えるため。マークがあれば細かい字が読みにくいお年寄りや日本語の分からない外国人も、誰もが直感的に理解できる。

- ② 機関紙の下半分を用いて、災害時に備えて、自分と他者のためにどんな工夫ができるか、自分にできることを考える。

事前にできることを考えてみよう！



調べる ●学校の近所は？ハザードマップと照らし合わせて地域の危ない場所を知ろう



伝える ●家族や友達にも教えてあげよう



備える ●災害に備えるため何ができるだろう？

指導者の皆様へ
平時から防災マークを学習し、地域の災害リスクを知ること、災害時に自分と周りの大切な人の命を守ることができます。防災意識を高め、周りの人を思いやることの大切さを学ぶ機会に、本紙を道徳の授業や防災学習でご活用、ご紹介ください。



災害時の
準備はここから



アンケートに
ご協力ください

日本赤十字社 人間を救うのは、人間だ。Our word & Your move.
Japanese Red Cross Society

   
災害時の備えは、自分と周りの大切な人の命を守るために必要です。自分自身だけでなく、家族や友達にも伝えてあげよう。災害時の備えは、自分と周りの大切な人の命を守るために必要です。自分自身だけでなく、家族や友達にも伝えてあげよう。

例：ハザードマップと照らし合わせて地域の危ない場所を知る。

友達やおうちの人と、災害時の危ない場所や避難すべき場所を共有する。

災害時に備えるために他に何ができるか考える。(非常持ち出しバッグを作る等)

- ③ 今の学びや活動が、災害時や非常時に自分と周りの人のいのちを救う。自分にできることは微力だけど無力ではない。学び、伝え、行動しよう。